

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス みると+		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 5日		2026年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年 2月 5日		2026年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全体的な満足度が高い点。	優劣などはつけず、得意不得意に寄り添うことを職員で意識しているため、個々への丁寧な関わりが可能だと思われる。	丁寧な関わりを職員全体が引き続き意識できるようにする。また、子どもの些細なことでも職員間で共有し、支援方法を日々試行錯誤しながら取り組む。
2	清潔で心地良く過ごせる環境や活動に合わせた環境設定になっている点。	清潔に保つことができるように始業、就業と1日2回に分けて掃除を徹底している。また、メインのフロア、運動ルーム、学習ルームと用途によって部屋分けがされており、メリハリをつけて過ごすことができる環境設定である。	引き続き綺麗な施設を保てるように隅々まで行き届いた清掃を行う。部屋の使い分けについても用途を職員全員が把握し、適切な人数、内容、タイミングで使用することができるよう務める。
3	個人情報管理の点。	児童の個人情報に関しては、名前、写真など保護者にお伝えや報告をする際も留意している。 また、リトムや実績などの入れ間違いなどを防ぐため、送迎者、フロアの職員でダブルチェックを行なっている。	引き続き個人情報に留意しながら、正しく保護者の方へのご報告や伝達事項を伝える手段を継続する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブなどの交流の機会が少ない点。	実際に送迎に行った際にその場のスタッフさんとその日の児童の体調や情緒面を一言二言引き継ぎをするのみになっており、ケース会議や他施設との情報交換や方針のすり合わせがなかなかできていないためだと考えられる。	受身体制ではなく、積極的に自事業所からケース会議や交流の場を設ける試みを行う。また、それに対して保護者の方の意見やご家庭での様子なども加味した上で個別支援計画や今後の支援に反映させていきたい。
2	家庭支援プログラムが乏しい点。	毎日、学校から自宅などの往復が多いため、保護者同士が顔を合わせるタイミングが少ない。親子参加型のイベントも行ったが、事業所対1保護者になることがほとんどだったので、交流がほとんどなくコミュニケーションも取りづらそうだった。	子ども主体以外にも保護者様主体のペアレントトレーニングや講習会、相談会なども開催して、意見交換や相談の窓口につながる取り組みを増やしていく。
3	災害時の対応について。	年2回避難訓練を実施しているが、大々的に行っておらず、保護者様の耳には入りにくい。何をしているのかも説明不足で、避難経路や避難場所のお伝えも不明瞭である。	こちらの側の作業にならず、地域の避難場所や実際にお世話になる近隣住民の方に声掛けなどを行い、地域、事業所どちらも連携が取れるようにしていきたい。